



インターナショナル新書

『税のタブー』

三木義一（青山学院大学学長、弁護士）

定価：本体 860 円＋税

体裁：新書判／256 ページ

発行：集英社インターナショナル（発売：集英社）

ISBN：978-4-7976-8041-6

日本の税制の抱える問題に、
わが国の税法第一人者が迫る！



8月7日(水)発売

宗教法人はなぜ非課税なのか？
暴力団の上納金には課税できるのか？
政治団体の巧妙な税逃れの方法とは？

政治家と官僚まかせにした結果、税制は複雑、不公平なものとなった。特別措置法は乱用され、企業への優遇措置は隠されたままである。酒の販売免許制度は選挙の票集めに利用される。

不公平税制の真因を、税の成り立ちから考える。

—— 本書「まえがき」より

税の世界でタブー視されているものがいくつかあります。それらは本当にタブーにしておくべきものなのでしょうか。本書ではこの素朴な疑問を具体的に取り上げ、必要な場合には、税制の基本にまで立ち返って考えてみようと思います。

結論をあらかじめ述べておくと、税金の制度は人間が自分たちの社会の都合に合わせて作り出したものですから、宇宙を支配している原理や法則とはまったく異なります。きわめて公正で合理的な税制も、まったく逆に、きわめて不公正で恣意的な税制も、制定することは可能です。ただ、その社会の人々がそれを政治的に受け入れるかどうかの問題です。もしかするとタブー視されている税の問題のほとんどは、タブー扱いされることで利益を得ている人々が誇張して述べているだけなのかもしれないのです。本書では、このことを具体的にわかりやすく示してみたいと思います。

—— 目次

第1章 宗教法人

第2章 政治団体と税

第3章 暴力団に課税できるか？

第4章 必要経費を考える

第5章 交際費課税はそろそろやめよう

第6章 印紙税はいらない！

第7章 固定資産税はミスだらけ

第8章 酒の販売と免許

第9章 特別措置は必要か？

第10章 源泉徴収・年末調整

最終章 国境



三木義一（みき・よしかず）

青山学院大学学長。1950年、東京都生まれ。一橋大学大学院法学研究科修士課程修了。法学博士、弁護士、民間税制調査会メンバー。元政府税制調査会専門家委員会委員。著書に『日本の税金 第3版』『日本の納税者』（共に岩波新書）、『よくわかる税法入門（第13版）』『新 実務家のための税務相談（民法編、会社法編）』（編著・監修、共に有斐閣）、『税ってなに？』（監修、かもがわ出版）など。税の御意見番として、雑誌・新聞メディアによる取材多数。

※ぜひ貴媒体にてご紹介をご検討いただけますと幸いです。

【本書のお問い合わせ先】

集英社インターナショナル

電話 03-5211-2630

公式サイト <https://www.shueisha-int.co.jp>